

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ニホンダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）ヤマモトゼミナール
日本大学	商学部	山本ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）エーチーム	フリガナ）タカハシカイ	4名	無
Aチーム	高橋開		

研究テーマ（発表タイトル）

学校へ持っていこう～衣類回収プロジェクト～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

大学構内に衣類の回収ボックスを設置して、大学生からファストファッション衣類を中心に回収する。

現在、衣料品販売店や自治体による衣類の回収が行われているが、中小企業基盤整備機構によると、2009年度における家庭からの衣類供給量 83万 3770 トンと家庭からの衣類回収量 5万 7680 トンという数値から、家庭からの衣類回収率は約 7%に過ぎず、多くは廃棄されている。衣類の回収率を高めるためには、身近な場所に回収ボックスを設置するとともに、衣類の大量廃棄がもたらす問題を広く認識してもらうことが重要だと考えられる。そこで、実際に大学生にとって身近な大学構内に回収ボックスを設置し、ポスター等で衣類の大量廃棄問題を目にしてもらおうと、どの程度、衣類の回収が可能であるのかを検証する。あわせて、大学生に衣類の廃棄問題を認識してもらい、衣類の回収などに取り組むきっかけとしてもらう。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

衣類の回収率が約 7%という現状は先に述べた通りである。それに加えて細田（2012）によると昨今ファストファッションブランドにおける洋服が「価格が安い」といった点から注目を浴びてり、学生世代（24歳までの層）で人気が高いとされている。特に近年は、若者に人気のファストファッション衣類の供給量（販売量）が増加している。ファストファッションは安価であるがゆえに、購入頻度も高く、廃棄される量も増えていると考えられる。したがって、衣類の廃棄問題を改善していくためには、若者によって購入されたファストファッションをいかに回収するかがカギとなっているのではないかと考える。それとともに、その大量生産大量消費から衣類ゴミ増加といった面で環境へ悪影響を与えるといった問題を持つ。これまでも、衣料品販売店や自治体でも衣類の回収ボックスが設定されるなど、回収の取り組みが行われているものの、その成果は十分に上がっていない。

3. 研究テーマの課題

回収率が低いのは、衣類の回収が身近な場所で行われていないことや、衣類の廃棄にともなう問題が認識されていないこと。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

衣類回収 PROJECT の提案

研究テーマについて事例や論文研究を行ってきたところ、回収率が低いのは、衣類の回収が身近な場所で行われていないことや、衣類の廃棄にもなう問題が認識されていないことにあるのではないかとの仮説にいたった。このような仮説を検証すべく、今回のプロジェクトを計画するにいたった。アンケート調査の結果、衣類の回収率を高めるためには、身近な場所に回収ボックスを設置するとともに、衣類の大量廃棄がもたらす問題を広く認識してもらうことが重要だと考えられる。そこで、日本大学学生課、衣類の回収事業を行っている株式会社ナカノ様の協力のもと、大学内に衣類回収 BOX を設置させていただき、衣類回収に貢献したいと考えている。単純に不要になった衣類を回収するだけではなく、衣類回収 BOX にファストファッションが関わっている問題点や、日本の衣類リサイクルの歴史、株式会社ナカノ様の取り組みなどをポスター化し掲示する。そこで、衣類回収の取り組むべき理由や衣類ゴミの行方を発信できる場とする。スタンプカードの導入により、衣類 1 枚につき 1 ポイントのスタンプを押す。10 スタンプで反毛（集められた衣類を崩して綿状にしたもの）で作られた「よみがえり」、「よみがーる」という軍手を 1 組配布することで、リサイクルの見える化を実現し、日本人の元来持っている「もったいない文化」の回帰にもなればと考えている。また、実際に回収した衣類はナカノ株式会社様に提供する。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケート調査

① 実施日時：2016 年 7 月 1 日から 2016 年 7 月 31 日

② 対象：日本大学商学部在籍の学部生

衣類回収 PROJECT の提案

①日時：平日 3 日間の学生が集まりやすい昼休みの実施とする

②場所：校舎の入り口付近の共同スペースに設置

③衣類の回収の流れ

1. 大学に資金の提供を依頼する。（学生に利益が発生しない、担当教授からの許可が得られれば可能とのこと）
2. 大学から提供していただいた資金でナカノ株式会社様より軍手の商品である「よみがえり」「よみがーる」を購入する。
3. 日本大学商学部で衣類回収を実施。その際、不要衣類と軍手の交換を実施。
4. ナカノ株式会社様より回収した衣類を回収していただく。（手袋購入の対価として、無料で回収して頂けるとのこと）

④交換品（「よみがえり」、「よみがーる」）の購入量および購入予算

購入量 800 組とする

購入予算 800 組×1 組 25 円=20000 円

⑤回収見込み

	学生数	回収量	実施期間
明治大学	10746 人	1010 着	3 日間
日本大学商学部	5783 人	816 着	3 日間×2 階

→男女比の割合が同程度の明治大学和泉キャンパス（実績）と比較

明治大学和泉キャンパス学生数：（男）6882 人、（女）3864 人

日本大学商学部学生数：（男）約 3470 人、（女）約 2313 人

女性の回収見込み

3864:357=2313:@ 357×2313=3864×@（小数点第二位四捨五入）825741=3864@

@=825741÷3864=213.7 3日間の女性回収量約 214 着
→同様の計算式で男性の3日間での回収見込み約 194 着
194 着+214 着=408 着
年2回の実施より・・・
408×2=816 着
→衣類回収プロジェクトより、年間約 816 着の回収が可能

衣類を1着当たり0.25kgと仮定し、816着回収すると204kg回収できる。09年の全国からの家庭からの回収量が57680000kg、09年の世帯数が52877802世帯という現状から1世帯あたりの衣類回収量は1.1kgということがわかる。よって、約185世帯分の回収量に相当する回収が可能。

6. 結果や今後の取り組み

これまでの研究から、学生課からの許可がおり、各種手続きが完了したのち、実際にプロジェクトを実施する。

7. 参考文献

- ・経済産業省 2015年1月『繊維産業の現状及び今後の展開』
- ・中小企業基盤整備機構 2010年2月『「繊維製品3R関連調査事業」報告書』
- ・細田咲江 2012年9月『ファストファッションと若年者の消費行動』
- ・蘆田裕史 <http://artscape.jp/index.html> 2016年8月閲覧
- ・VISIONMIRE.COM 『「ファストファッションの裏側」では多くの人々が犠牲に,,,低賃金で重労働を強いられる労働者の人権とは? <http://visionmire.com/the-back-of-the-fast-fashion-low-wages-hard-work-humanrights-of-workers/> 2016年7月閲覧
- ・昭和アルミニウム缶 http://www.showacan.co.jp/alumi_can/anser6.html 2016年8月閲覧
- ・総務省 HP http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/17216.html 2016年8月閲覧
- ・PETボトルリサイクル推進協議会 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/data/transition.html> 2016年8月閲覧
- ・日本衣料管理協会『衣料の使用実態調査』 <http://www.jasta1.or.jp/research/research.html> 2016年7月閲覧
- ・山田敏夫『衣料品は年間約20億着捨てられている』 http://www.huffingtonpost.jp/toshio-yamada/20_4_b_5371017.html 2016年7月閲覧

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合は同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。